

キックオフシンポジウム と 対話ワークショップ

認知症の当事者と周りの人の 葛藤変容、そして人生の和解へ

日時: 2018年9月29日(土) 13時半～17時半

場所: 熊本大学黒髪北キャンパス
文法棟2階共用会議室

対話ワークショップでは、「認知症をめぐる葛藤と人生の和解」について、参加者同士で対話します！ ファシリテーター付き。

プログラム:

第Ⅰ部: ご挨拶・研究班のご紹介

第Ⅱ部:

① 講演: 「紛争解決学で読み解く認知症」 石原明子

② 対話ワークショップ:

認知症をめぐる当事者と周りの人の葛藤、そして人生の和解
(休憩)

第Ⅲ部:

③ 講演: 「認知症当事者中心に何ができるかーパーソンセンタードケア・合理的配慮・権利ベースアプローチの視点から」 石原哲郎

④ 対話ワークショップ 後半
(休憩)

第Ⅳ部: パネルディスカッション、全体討論ー今後に向けて

<申し込み・問い合わせ> 事前申込歓迎、当日参加も大丈夫です！
熊本大学 准教授 石原明子 aishi@kumamoto-u.ac.jp

<研究班メンバー紹介>



石原明子 (MA, MPH)
熊本大学大学院
社会文化科学研究科 准教授
紛争変容学・医療政策

厚生労働省研究所で医療政策研究を10年行なった後、2008年より、熊本大学で、日本初の紛争解決学の大学院で教鞭をとる。研究代表者。



石原哲郎 (PhD)
みはるの杜診療所院長
東北大学 研究教授

名古屋大学で医学博士取得後、東北大学助教を経て、現職。

認知症に関する合理的配慮、権利ベースアプローチ、パーソンセンタードケアの若手一人者で、世界中の認知症当事者リーダーから最も愛される日本人医師。分担研究者。

<開催にあたってのメッセージ>

認知症者は2050年には、日本人人口の10人に一人とも推計されています。誰でもが認知症になったり、その隣人となるのが当たり前の時代となっています。

しかし、認知症になれば、当事者も、周りの人も、葛藤を抱えます。できたことができなくなる、本当はしたいのにさせてもらえないこと、尊敬していた父母が以前とは全く違う姿、あるいは、若いころあんなに頑固だったのに全く違う姿の家族。家族以外に一般社会の中でも「認知症の人にどうかかわつたらいいの？ちゃんとコミュニケーションとれるの？」など、様々な葛藤が沸き上がります。

その中の一部は、コミュニケーションの特性を工夫すればとける葛藤ですが、一方でそこには、これまで積み重なった家族の物語や人間関係の過去の傷なども投影されて、本当に苦しい思いが沸き上がることも少なくありません。

今回、熊本大学で「紛争解決・葛藤変容学」を専門とする石原明子准教授と、仙台の清山みはるの杜診療所院長・東北大学研究教授の石原哲郎博士を中心として、「紛争解決学で読み解く認知症者の対人間葛藤ー認知症との共生社会のために」という研究班を立ち上げました(科学研究費補助金 挑戦的研究)。石原哲郎博士は、パーソンセンタードケア、合理的配慮、権利ベースアプローチの新進気鋭のリーダーで、日本人の中では世界の認知症当事者リーダーと最もつながりをもつ若手研究者・医師です。

直前のご案内となりますが、9月29日にキックオフシンポジウム・ワークショップを行います。ケアワーカー、医療者、行政、研究者のみならず、認知症の当事者の方や家族の方や、一般に関心のある市民・学生さんも大歓迎します。ぜひお越しいただきましたら幸いです。

科学研究費補助金 挑戦的(萌芽)研究 研究代表者 石原明子(熊本大学)

裏ミッション!

今回の企画は、
認知症当事者のオピ
ニオンリーダーの
「丹野智文さんを来年
か再来年に熊本に呼
ぼう」企画のプレ準備
会を兼ねています!



ご一緒いただける方、
ぜひ来てください。